11月定例教育委員会会議録

公開案件

開催日時	令和６年 11 月 26 日（火）　午後２時から	
開催場所	奈良市役所　中央棟地下１階　Ｂ１会議室	
出席者	委員	北谷教育長、柳澤委員、梅田委員、川村委員、新井委員 【計５人出席】
	事務局	小林課長補佐、荒谷
	理事者	垣見教育部長、若林教育部次長、土田教育政策課長、徳岡教育総務課長、石増教育施設課長、引野教職員課長、原田地域教育課長、高保健給食課長
開催形態	公開（傍聴者なし）	
議題	１　教育長報告 教育長報告（１）　令和６年度 12 月補正予算要求額について非公開 教育長報告（２）　市長専決処分の報告について 教育長報告（３）　公の施設の指定管理者の候補者の選定について（奈良市立公民館分館 22 施設）非公開 ２　議案 議案第 32 号　令和７年度奈良市立中学校夜間学級生徒募集要項について非公開 議案第 33 号　奈良市立一条高等学校教員人事異動方針について	
決定取り纏め事項	１　教育長報告 教育長報告（１）　令和６年度 12 月補正予算要求額については、了承した。 教育長報告（２）　市長専決処分の報告については、了承した。 教育長報告（３）　公の施設の指定管理者の候補者の選定について（奈良市立公民館分館 22 施設）は、了承した。 ２　議案 議案第 32 号　令和７年度奈良市立中学校夜間学級生徒募集要項については、原案どおり可決した。 議案第 33 号　奈良市立一条高等学校教員人事異動方針については、原案どおり可決した。	
担当課	教育政策課	

議事の内容	
教　育　長	皆さん、お揃いでしょうか。11 月定例教育委員会を始めます。 まず、事務局より資料の説明をお願いします。
事　務　局	資料については、既にお配りしているとおりでございます。
教　育　長	本日の委員会は、委員全員が出席しており委員会は成立します。 ただいまから、11 月定例教育委員会を開会いたします。本日の会議録署名委員は、私と梅田委員でお願いします。 次に、会議録の確認を行います。10 月定例教育委員会の会議録の署名委員は、新井委員です。新井委員、いかがでしょうか。
新 井 委 員	結構です。
教　育　長	ありがとうございます。 それでは、本日の案件に入ります。本日の案件は、教育長報告３件、議案２件の計５件でございます。なお、先月使用承認した後援名義は 20 件ございましたので、ご報告いたします。 本日の案件のうち、教育長報告（１）及び教育長報告（３）、議案第 32 号は、奈良市情報公開条例第７条第５号に当たる事項が含まれているため、非公開として審議すべきであると思いますが、いかがいたしましょうか。
各　委　員	異議なし。
教　育　長	よって、教育長報告（１）及び教育長報告（３）、議案第 32 号は非公開とすることに決定いたしました。 それでは、公開の案件から始めます。教育長報告（２）「市長専決処分の報告について」、教育施設課長より説明願います。
教育施設課長	資料１ページをご覧ください。内容につきましては、令和６年９月 11 日の午後４時頃、奈良市立京西中学校におきまして、草刈の作業中の飛び石により、同校敷地内に駐車していた相手方の自動車のリアガラスを損傷させた事故について、地方自治法第 180 条第１項の規定により、令和６年 10 月 23 日付けをもって市長専決処分を受けたことを、本日ご報告させていただくものです。なお、損害賠償の額は 43 万 9,747 円でございます。 以上でございます。
教　育　長	それではこの件に関しまして、ご意見、ご質問はございませんか。

柳 澤 委 員	駐車スペースというものがあらかじめ学校において定められているかどうかと、実際にこの車の駐車位置はその駐車場スペースの中であったかどうかについて、教えてください。
教育施設課長	駐車位置は、放課後等デイサービスのお迎えになりますので、玄関に近い場所になると認識しています。
柳 澤 委 員	駐車スペースが定められているのかどうか。そしてこの当該車がそこに駐車していたのか。写真を拝見しますと、後方に１台白の軽自動車が停まっているので、この当該車が停まっているところは白線等の指示がないように見受けられますが、この辺りはどうですか。
教育施設課長	白線等はございません。
教 育 長	まず、学校に来客用の駐車場があるのかとかいうことをお聞きになっているので、指定した場所があるのか。
教育施設課長	そこは来客用の駐車スペースというわけではございません。
柳 澤 委 員	ストレートに申し上げると、どこに停まっていてもよいということなんでしょうか。校長管理職としては。
教 育 部 長	図があれば詳しくご説明できるのですが、京西中学校は元々建設時、山の上の部分を削って作っており、ちょうど住宅地の真ん中にございますので、南から北に抜ける道路が通っております。ですから、通常通行ができるような形で校舎のへりに沿ったり、東側の土手に沿ったりというところで通行の邪魔にならないような形で停めていただいております。もしくは、校舎の北側のスペースと、自転車置き場等がございますので、そちらに停めるということになっております。委員ご指摘の来客用の駐車場というのが決まっているということではないんですが、通常通行ができる範囲での駐車ということで、体育館周辺、それから東側の校門周辺のところに駐車しているもので、特に通行スペースに邪魔になる場所ではないこと、あわせて放課後等デイサービスのお迎えということで停めていただいていたというところでございます。
柳 澤 委 員	それで結構だと思うんですけど、専決処分のところで、例えば学校側から、駐車場所が不適切であったのではないかということの主張はされたのでしょうか。それとも、先方の停められた場所はそれで結構だという前提で、示談というか、専決処分に持っていったのか。市のスタンスはどうだったんでしょうか。

教育施設課長	施設管理者の中学校の方から、特にその場所に停めてはならないという指摘はございませんでした。
柳澤委員	事実関係だけ確認したかったので、事実そうなら、それで結構だと思います。その結果として、損害賠償請求の中に、本来学校側が主張すべきであった点が主張できなかったということはありませんか。
教育施設課長	学校が駐車位置に関して主張すべきことは特にございませんでしたので、両者話し合いの上で、示談になったという形でございます。
柳澤委員	ありがとうございました。
教育長	ほかにございますでしょうか。 それでは、ほかにご意見がないようですので、教育長報告（２）「市長専決処分の報告について」は、了承いたします。 次に、議案の審議に移ります。議案第33号「奈良市立一条高等学校教員人事異動方針について」、教職員課長より説明願います。
教職員課長	内容につきまして、まず資料１ページ、奈良市立一条高等学校教員人事異動方針をご覧ください。 それでは、「１．基本方針」について説明させていただきます。基本方針は４点ございまして、「（１）一条高等学校の特色ある教育活動を推進するとともに、教員組織の充実と均衡を図るため、適材を適所に配置する」こと。「（２）教員の経験を豊かにし、気風の刷新を図るため、若手教員を中心に積極的な交流を図る」こと。「（３）生徒の指導の充実強化を目指し、教員の特性、経験を生かす異動に努める」こと。「（４）効果的な中高一貫教育を行うため、附属中学校との兼務を含む中高の接続を念頭においた教員配置を行う」こととしております。 （２）につきましては、昨年度にご審議いただきました際に、「気風の刷新」の対象が教員だけなのか学校全体なのか明確でないというご指摘をいただいております。これを受けまして、教員が対象であるということを明確にするために、「気風」の前に「教員」という言葉を追加し「教員の気風の刷新」という形にすることを検討したのですけれども、同じ文章の中で「教員」という単語が重複いたしますので、ここでは変えずに、文章は元のままとさせていただきました。人事交流により教員の気風の刷新を目指しているということをご理解いただければと存じます。 なお、（４）に関連いたしまして、現在附属中学校には中学校、高等学校両方の免許状を所有する教員を配置しております。中学校教員につきましては高等学校との兼務、高等学校教員は中学校との兼務を発令しています。人事異動に関連して校長に聞き取りをしたところ、中学校で

	の英語・数学の少人数分割授業に、高等学校の教員が入り授業を行っているとのこと。また、社会につきましては、中学校教員が高校での探究活動を指導するとともに、高等学校の教員が中学校で歴史の授業を行っているというようなことでした。実際に中学校の授業を受け持つ教員がいることで、ほかの高等学校教員も中学校との連携を強く意識するようになったとのことです。引き続き、兼務が中高一貫教育にもたらす効果や、現在の人員配置が一条高等学校の特色ある教育の実践につながっているのか等を、関係課と連携しながら検証していきたいと思っております。 　続きまして、「２．実施要領」についてご説明いたします。「（１）任用・転任」についてですが、県立高校との派遣交流については次の項目で詳しく述べているため、転任として、一条高等学校と教育委員会事務局との間での交流を挙げております。これらに加えて、継続して適材適所の配置を図ってまいります。 　次に、「（２）県立・国立・私立学校等との派遣交流」についてです。派遣交流は教員の資質向上及び教育研究の一層の充実を図ることを目的としており、現在、県立の中高一貫校である奈良県立国際高校と、令和４年度から６年度までの３年間の人事交流を行っており、交流終了時に中高一貫校としての経験・ノウハウを一条高等学校に還元することを期待しているところです。加えて、今年度から教頭の人事交流として、一条高等学校から県教育委員会の事務局、県立高校から一条高等学校への人事交流を実施しております。また、県立学校だけでなく、国立、私立学校も含めて幅広くより良い教員人事交流のあり方を検討していくことを定めております。 　なお、昨年度のご審議におきまして、国外との交流も視野に入れてはどうかというご指摘がありました。現在、小中学校の教員につきましては、文部科学省の在外教育施設、いわゆる日本人学校への派遣制度がございますが、高等学校教員について同様の制度があるか調べてみましたところ、応募自体はできるのですが、派遣先が高等学校ではなく、中学校への派遣になるということで、高等学校教員としての資質向上にはつながりにくいと考えて、今回は見送っております。 　以上、一条高等学校教員人事異動方針につきまして、ご審議のほどよろしくお願いいたします。
教　育　長	それでは、この件につきましてご意見、ご質問はございませんでしょうか。
柳 澤 委 員	初歩的な質問で申し訳ないんですけども、異動には、学校内の職務分掌は入っていないのでしょうか。つまり、中高間、あるいはほかへ出て行ってということなのか。あるいは、管理職は明らかに分かるんですけれども、一般の教員で、例えば学年主任になるとかならないとか、クラ

	ス担任になるとかならないとかは、異動に入るのか入らないのか。教えてください。
教職員課長	人事異動方針で申し上げております異動につきましては、学校と学校間の交流については入れておりますし、管理職への登用についても、市教委は人事異動として取り扱います。ただ、校内で担任に誰を充てるか、どこの校務分掌で何を充てるかというのは学校長の権限になってきますので、人事異動方針の中で直接言及することはございません。
柳澤委員	「２．実施要領」の「（１）任用・転任」の③で、年齢が具体的に明示されていますが、「１．基本方針」の（２）に「若手教員を中心に積極的な交流を」とあります。これは、具体的には何を指してるんでしょうか。人事交流派遣のところで、若手教員にそのような経験を積ませるというのが主な内容、目的になっているということですか。
教職員課長	人事交流の目的には、その経験を持ち帰って、一条高等学校に還元するというところがございます。ここで「若手教員を中心に」としていますのは、例えば50代後半辺りの教員ですと、行って戻ってきて、還元する機会が少ないということもあります。一定、一条高等学校での経験を積んで一条というものを知った後に、一条の経験と派遣先での経験を比較しながら、戻って還元できることを目指して、比較的若手ということにさせていただいております。
柳澤委員	反論するつもりはないのですが、いわゆる若手・中堅という区分でいうと、中堅も、今おっしゃった経験を当該校で５年10年経験した後で交流ということもあります。若手というのは、20代前半で入られて30代になった方のことを主に想定されているのか、それとも、勤務５年目安で20代後半を想定されているのか。戦略とまで言えないんですけれども、その辺りについて任用の考え方があるんでしょうか。
教職員課長	近年、何年か新規採用を行っていなかったこともあり、実際のところ、20代が多いかというと、あまりいない状態ではあります。概ね30代前半ぐらいで一度経験を積んでもらいたいとは思っていますが、今の年齢構成上、思いどおりの構成かというと、現状ではそうでもないというところがあります。比較的30代ぐらいで派遣交流に行っていただくケースが多いかと思っております。
柳澤委員	ありがとうございます。分かりました。
教育長	よろしいでしょうか。ほかにございませんか。

川 村 委 員	「２．実施要領」の（１）の③に「年齢・性別・教科・勤務年数等を考慮し」と書いてあります。年齢、教科、勤務年数は理解できますが、性別という項目をこちらに入れられている理由について、奈良市教育委員会としてのお考えがあれば、教えていただきたいと思います。
教職員課長	全ての教科で性別というものが必要であるかというと、ないとは思うんです。ただ、授業の中には体育もありますので、そうするとやはり男女ともに必要であると私たちも考えるところです。ほかの教科だと、必ず男女というのは特にないですが、やはり女性の生徒も男性の生徒もいる中ですと、どちらかの性に偏った構成にしないよう、ある程度は男性の教員ばかりにならないように女性の教員も入れる等は出てくるかと思います。ただ、教科によっては元々１人しか置けない場合もありますので、そういった時には、どちらかの性別の教員しかいない状態にもなり得ますが、全体のバランスというところで、今のようなお話になろうかと考えております。
川 村 委 員	今の説明で少し分かりました。やはり文字にすると、「性別」という言葉が先走ってしまうような印象があり、ジェンダーレスを目指す時代を迎えるに当たって、このような形で載せる必要があるのかどうかという疑問点がありましたので、質問させていただきました。ですが、教科、特に体育の専科教員のことがあるのですね。分かりました。ありがとうございます。
柳 澤 委 員	便乗するようですが、これまでの実績で、男性教員の派遣と女性教員の派遣の母数に対する割合がどの程度かによると思います。あえて言うと、元々母数として男性が多いのが前提ではありますが、奈良市の姿勢として男女雇用の機会を平等にということで、今まで男性教員が比較的多かったところを今後は女性に対して一定積極的に推していくということであれば、課長級人事等も含めて、むしろ女性をやや重点的にしてもよいのではないかと思うんです。文字化するかどうかは、別として。明確に今の説明を受けたら納得する話なんですけれども、この形で言うと、どうなのだろうかという単語が並んでいる気がしました。 小学校教員は県の所管だと思うんですが、子育てを含めた様々な負担面で女性教員のサポートをどうするかというところで、男性教員と女性教員の違いが統計上出ているのかは分からないですが、その辺で改善点があるのであれば、一条は市立高校ですけれども、義務教育課程の学校でも、教員の改革全体の中に性差が反映されるのかされないのか、してもよいのかすべきではないのか等、この辺りは様々な議論の余地があるかと思うんですが、川村委員がおっしゃったことも一つの視点だと思います。

教　育　長	今のご意見を、また今後議論する必要があるかということですが、課長から何かありますか。
教職員課長	実情として、人事交流の話で言いますと、近年は結構女性の教員も人事交流で出ています。県立高校との交流の中でも、２年に１度ぐらいの頻度で女性教員が出ておりますし、先立って一度行った奈良女子大学附属との交流の時も女性教員です。交流の時は基本的に、同じ科目、同じ性別の方同士で交流する形をとるので、県から来られる方も、女性が来る形とさせていただいています。 例えば、新卒の採用の場合ですと、そもそも受験者自体に女性が少なかった場合は、結局合格者が男性になるケースはもちろんありますが、どの方も応募しやすいように、女性が排除されないようにどちらも採れるよう、成績次第という側面はありますが、そのあたりも配慮しながら採用していこうと思いますので、よろしくお願いします。
教　育　長	性別を基準に採用するとか、任用・転任するというようなことは一切なく、現場感としては、課長が説明した教科の特性の部分でしかないのかと思います。また、学校全体を見たときに、男性教員と女性教員のバランスも、生徒のサポート上、きっとある程度考慮しなければならないということなので、配慮事項として明記する必要があるかどうかは来年度に向けて議論していきたいと思います。 ほかにはございませんでしょうか。
梅田委員	この方針がある一定決まった後の話かもしれませんが、次年度に向けて学科等々の動きがあるかと思います。市立の高等学校が１校だけということもあって、人事異動と言ってもそんなに大きな動きではないのだろうと思いますが、学科の動きがあるということを考えて、今年度の場合、教職員の定数等の動きは予測される状況にあるんでしょうか。
教　育　長	課長、お願いします。
教職員課長	細かい数字はこの場では持ち合わせていないんですけれども、現在の外国語科がなくなることについてのお話かと思います。外国語科がなくなるということで、例えば教頭の人数が１人減ることや各教科の人数配分については、いずれは見直していかなければなりません。ですが一方で、外国語科という形ではありませんが普通科でも英語教育をきちんと重点的に取り入れていくという部分もあると聞いておりますので、そういう意味では、必ず英語科の教職員の定数が大きく減ることはないと認識しています。ですが、やはり規模感としては少し人数が減るという形にはなりますので、その辺りも考慮しながら今後の人員配置を進めていくことになると考えております。

梅田委員	よくある議論ではありますけども、教員の数が多ければそれでよいというわけではありませんが、今おっしゃっていただいたような教育内容や一条の特色がしっかり見えるようにということも併せて考慮した異動の結果が、来年度またスタートが切れる状況までしっかりと持っていっていただければと思っております。よろしくお願いします。
教育長	ありがとうございます。よろしいでしょうか。
新井委員	昨年、派遣先に海外はどうかという話もして、調べていただいてどうもありがとうございます。ですが、今のところ見込める補助金がないから方針には入れないという選択が適切なのか、まだ分かりません。例えば、ある年に補正予算のような形で新しい補助金みたいな制度が出たとしても、方針に書いていなかったから見送ることになるというような、もったいないことになる可能性もあるかと思っています。可能性としてあるものは書いておいてもよいのではないかという部分が、僕の意見としては残りました。 昨年は思いつく範囲で海外という話をしましたが、僕としては、高校教員の資格のある方がいれば、交流先は民間企業などでも全く構わないと思っています。多分企業から高校に派遣する方がしやすく、一条から人員を出す方が難しくて交換が成り立たないことが多いのではないかと思っているので、一条高等学校がそんな特色のある学校で、そういうところにどんどん開いていく姿勢が見えるというだけでも大分変わるのではないかと思います。その辺りにまだ検討の余地があるのではないかということは、実際に予算立てがあるかないかは置いといて、そんな可能性を期待はしているというメッセージはまだ出せるのではないかと思っています。 例えば、志の高い教員がいると、自分で頑張って補助金の制度を見つけてくるかもしれません。また、最近たまたま聞いた個人的な話になるかもしれないけど、知っている方で今、奈良県の教育研究所から文部科学省に行かれている方がいます。そのようなスキームが、県の研究所や県の教育委員会ならあって、市だとないということにならないのか心配しているのですが、そこは大丈夫なんですかね。
教育長	指導主事の派遣に当たる予算のことですね。課長、お願いします。
教職員課長	まず、派遣しようと思うと、人に対するお金、実際に移動するための引っ越し費用、派遣先での住居費等が諸々必要になるという事情があります。元々文部科学省は、実務研修という形で各市町村からの人を受け入れる取組をされていて、何年か前に奈良市からも派遣はしていました。行った先で学んで帰ってきて、還元をしないといけないというのもありますが、時期的にもコロナで在宅勤務になった事情もあり、その時

	に一度こちらも打ち切りをしました。県内や近隣の市町村との派遣交流ですと、住居等生活関係を動かさずに行けますが、先ほど話題になった海外や、国内であっても遠方になりますと、住居を移す等、生活自体を動かさなければならず、その費用は市が負担することになりますので、なかなか１名のために予算立てすることは難しいという側面もあります。 海外の話もそうですし、企業の方に行く、企業から来るという話を意欲のある方がご自身で見つけてくるかもしれないということについてもそうですが、外部の方に来ていただくことに関する大きなハードルは、授業をしていただくとなると免許が必要となるという点です。そこのところが、民間企業の方のいろいろな知識は刺激になるのでぜひいただけたらと思う一方で、教壇にそのまま立っていただくのはなかなか資格的に難しいという部分がハードルとしてあると考えているところです。
新井委員	奈良市でちゃんと予算立てしようと思うと現実的にまだ難しいというお話だと思いますが、僕が言いたいのは、この人事方針をベースにいろいろな教員が交流派遣について検討しようと思ったときに、基本方針に記載の対象が県内に限定されていると、仮に何かうまい予算立てができたとしても記載事項が制約になって対象外だと思ってしまったり、校内でそのような判断がされたりする可能性があり、それを危惧しているということです。もちろん、可能性が全くない状態なのなら、現状のままでよいと思いますが、民間企業といっても、例えば教育産業の企業であれば教員 OB の方が入られているかもしれませんし、恐らく教員免許の問題は、業界によっては問題なくクリアできる場合もあると思います。とりあえず、すぐに実行すべきという意味ではなく、可能性を残しておいてもよいのではないか、くらいの意味で僕は意見しているところです。
教職員課長	承知いたしました。可能性ということで、新井委員がおっしゃっていることは、学校内で生まれるかもしれない「外部に行きたい」という芽を摘んでしまわないかということかと思います。この辺りのことにつきましては、今後、校長と今後の人事の話等をするときに、外に勉強に行きたいという気持ちの強い人が学校内にたくさんいるかどうかという話と、一方で、やはり学校内で今いる生徒のための教育をしなければならず、外にどれぐらい出せるかという話ももちろんありますので、その辺りの調整をしつつ、来年度以降の人事異動方針でもう少し広げていくかについては、また検討させていただきたいと考えております。
教育長	新井委員がおっしゃっているのは、できないことの理由をたくさん挙げてということではありません。海外などもっと世界に目を向けて積極的に交流できる仕組みは、今はないし、予算もないので、今すぐ来年と

	いうことをおっしゃっているわけではなく、奈良市の方針としての話です。例えば、姉妹都市といろいろな仕組みを作ったら実現は可能です。ただし、通常想定している派遣交流というのは、一対一で教員が教員と代わるから授業ができるということですが、そういう仕組みの中では、外国の方が来られた場合、すぐに教壇に立てるわけではないので、教員が１名不足することになります。そのように、いろいろ課題はあるけども方針として、もっと視野を大きく広げた人事方針にならないのかということをおっしゃっているのだと理解しています。ご意見は、前向きに検討した方が良いかと私も思います。 はい、部長。
教育部長	教職員課長からお答えさせていただいておりますが、現状、費用面や制度面の課題があるので、そこはもう少し調べてまいりたいと思います。それから、以前に市内でも、全く違う業種ですが、市と包括連携協定を結んでいる企業と短期の人事交流ができないかというご相談をさせていただいたことがあります。ですがやはり、先方からすれば「教育委員会から何を学べばよいのか」という疑問もありますし、こちら側の準備としても、先ほど教育長のおっしゃったように、教員と教員でしたら相互で教壇に立てるというのがあります。また、スキルを向上するという意味では、元々は文科省や大学など、専門性を学べる場所へ派遣する制度がありましたが、それに当たっても、先ほど教職員課長も申しましたように、こちらから市の職員として派遣する費用がかかります。制度面と費用面で、おっしゃっているように海外を含めて、お互いにメリットがあるところがあれば、長期か短期かについても少し調べてみたいとは思いますので、現時点でお答えできるのはこの辺りです。
教育長	すぐできるかできないかというより、姿勢です。基本方針には、私たちがそのような仕組みの中で、どんな教員を目指してどんな教員を作りたいのか、何を学ばせたいのかということを明示するので、今、予算が足りないとか足りるとかではなく、予算をたくさん使ってでも必要なのであれば要求していくべきでしょうから、そういう視野をしっかり入れたらどうかというご意見だろうと理解しています。積極的に検討して書き込めるのかということは、次年度に向けてやるということでよろしいでしょうか。性別表記の件とこのことについても、早急に考えていけばよいかと思います。 ほかにございませんでしょうか。 それでは、ご意見がないようですので、議案第 33 号「奈良市立一条高等学校教員人事異動方針について」、採決をいたします。本案を原案どおり可決することに決しまして、ご異議ございませんでしょうか。
各委員	異議なし。

教　育　長	異議なしと認めます。 よって、議案第 33 号は原案どおり可決することといたします。 以上で、非公開を除く全ての案件が終了いたしました。

非公開案件	この審議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第７項及び奈良市教育委員会会議規則第５条の２の規定により非公開とする。
教育総務課長	教育長報告（１）「令和６年度１２月補正予算要求額について」、教育総務課長より概要説明。 本件については、了承した。
地域教育課長	教育長報告（３）「公の施設の指定管理者の候補者の選定について（奈良市立公民館分館 22 施設）」、地域教育課長より概要説明。 本件については、了承した。
教育総務課長	議案第 32 号「令和７年度奈良市立中学校夜間学級生徒募集要項について」、教育総務課長より概要説明。
各　委　員	＜異議なし＞ 本案については、原案どおり可決した。
教　育　長	これで本日の全ての案件は終了いたしました。そのほかに何かご意見、ご連絡はございませんでしょうか。 それでは、これをもちまして本日の教育委員会を閉会といたします。